

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																										
〈専〉YIC京都工科自動車大学校		昭和59年3月9日	村田 忠男		〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4040																										
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																										
学校法人京都中央学院		平成19年1月22日	井本 浩二		〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27 (電話) 075-371-4040																										
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																									
工業	工業専門課程	二輪自動車整備科			平成21年文部科学省 告示第21号	—																									
<b>学科の目的</b> 専門知識・技術を教授するだけでなく、技術教育を通じての人間教育を行うことにより、良識ある社会人として必要な資質を養い、地域社会の発展に貢献できる心豊かな二輪自動車業界における整備のスペシャリストの養成を目的とする(教育理念)。 具体的には、即戦力だけでなく、変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に進化し続ける自動車に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、職業人としての使命感をしっかりと確立した人物を教養育てることを目的とする。 自動車整備士は自動車分解整備事業の認証を受けた事業所において必要とされる資格であり、本校のような自動車整備士養成施設の卒業生が必要である。二輪自動車整備科においては、二級二輪自動車整備士国家資格の取得を第一の目標とし、自動車のメンテナンス(診断・点検・分解・組立・修理・調整等)の基本的知識・技術・技能を教授する。さらに、危険物取扱者、損害保険募集人資格、溶接技能等の資格も併せて取得させることにより、幅広い業務に対応でき、さらに良識ある職業人として豊かな人間性を備えたる即戦力となり得る人材を養成する。																															
認定年月日 平成27年2月25日																															
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2年	昼間	2,284時間	852時間		1,432時間																										
単位時間																															
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
50人	32人	1人	8人	3人	11人																										
学期制度	■1学期: 4月1日～9月30日 ■2学期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率90%以上、ペーパーテスト及び実技 成績: 秀(100-90) 優(89-80) 良(79-70) 可(69-60) 不可(0-59)																										
長期休み	■学年始: 4月1日～4月6日 ■夏季: 7月24日～8月31日 ■冬季: 12月23日～1月10日 ■学年末: 3月10日～3月31日			卒業・進級条件	出席率: 90%以上 成績: 60点以上(100点満点) 学費の完納																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者への連絡を密にし、本人との面談や場合によっては保護者を含めた面談を行い、状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。			課外活動	■課外活動の種類 学園祭実行委員、京専各体育大会等への参加(バレーボール、卓球等)ボランティア活動(地域清掃、献血、留学生交流)、同好会活動、オープンキャンパスボランティアスタッフ ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成31年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)																										
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成31年度卒業生) 自動車業界 ■就職指導内容 担任とキャリアサポート室スタッフを中心に、就職ガイダンス(自己分析、企業研究、プレゼンテーション)や個人面談、企業訪問、企業説明会を実施し、希望する企業への就職をバックアップする。 ■卒業生数 11 人 ■就職希望者数 11 人 ■就職者数 11 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成30年度卒業生に関する2019年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>二級二輪自動車整備士</td> <td>②</td> <td>秋実施のため未定</td> <td>秋実施のため未定</td> </tr> <tr> <td>三級二輪自動車整備</td> <td>②</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>ガス溶接</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>アーク溶接</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>損保(基礎単位)</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>10人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	二級二輪自動車整備士	②	秋実施のため未定	秋実施のため未定	三級二輪自動車整備	②	11人	11人	ガス溶接	③	10人	10人	アーク溶接	③	11人	11人	損保(基礎単位)	③	11人	10人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
二級二輪自動車整備士	②	秋実施のため未定	秋実施のため未定																												
三級二輪自動車整備	②	11人	11人																												
ガス溶接	③	10人	10人																												
アーク溶接	③	11人	11人																												
損保(基礎単位)	③	11人	10人																												
中途退学の現状	■中途退学者 3名 ■中退率 10.7% 平成31年4月1日時点において、在学者 28名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者 25名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 QU(Questionnaire Utilities)により、学生の学校生活での満足度と意欲、クラス集団の状態を把握し、学生の不適応感について、問題行動として現れる前に発見し対策を立てている。出席不足や授業についていけない学生には補講や再試験等を行う。心の問題に対する個人々々への対応は、CTIパーソナリティ診断を利用し、担任、キャリアカウンセラー、臨床心理士が協同し、開発的、予防的、治療的カウンセリングが行える体制としている。																														
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待奨学金制度(一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜)初年度学費¥よりS:学費20万円免除、A:10万円免除、B:5万円免除 ・ファミリーサポート制度(YICグループ校の在学生または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者)太子初年度学費より5万円免除 ・ひとり暮らしサポート制度(通学困難者で下宿をせざるを得ない者に対し毎月5千円補助) ・就学支援制度(大学・短大・専門学校卒業&見込生、社会人経験3年以上であり、本校に入学を希望する者に対し、初年度学費より10万円を免除) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 1名 ・前年度の給付実績者数: なし																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																														
当該学科のホームページURL	URL: <a href="https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/">https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/</a>																														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

・教育課程編成委員会において、学校の方針・編成に対する企業等による意見・提案をいただき、教育課程の編成をより商業実践的にすべく内容改変あるいは新規導入等の可否を検討する。さらに、企業等による連携授業・教職員の技術研修、学生の実務研修、就職指導等の協力・実施計画等併せて討議する。これらの結果は、基本的には次年度の教育課程編成に適用する。  
 ・編成委員会の意見・要請は教育課程の編成に十分生かすものの、最終的には学校の教育理念に沿ったものであることを前提に、編成した教育課程は最終的に校長認可の上実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。  
 ・学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。  
 ・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
千葉 真治	一般社団法人京都府自動車整備振興会 総務部 事業・情報課 課長代理	平成31年4月1日～ 令和 3年3月31日	①
伊藤 康久	ネットヨタ京華株式会社 取締役 管理本部用	平成31年4月1日～ 令和 3年3月31日	③
後藤 敬一	滋賀ダイハツ販売株式会社 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和 3年3月31日	③
嶋 雅明	有限会社嶋自動車電機 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和 3年3月31日	③
森脇 勝幸	いすゞ自動車近畿株式会社 執行役員 経営管理室 室長	平成31年4月1日～ 令和 3年3月31日	③
木下 敬朗	株式会社 レオタニモト サービス部長	平成31年4月1日～ 令和 3年3月31日	③
村田 忠男	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 校長		
西岡 正	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 教務課長		
山根 大助	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 内部監査(IR準備)室 室長		
細田 元一	学校法人京都中央学院 本部長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催日数 2回

(開催日時)

第1回 令和1年5月20日 15:20～17:30

第2回 令和1年11月25日 13:30～15:30

第1回 令和2年9月11日(予定)

第2回 令和2年11月(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育活動:

- ・人前で話ができることは非常に重要。資格よりも社会人としての強みとなる。  
 →非常に良い意見と感じる。学校生活をとおして、朝のホームルーム、オープンキャンパス等で話をする機会を設ける。
- ・カリキュラムの中に外国語の授業はないのか。  
 →授業とは別枠で自主的にさせようと考えている。前期AEONの講師に来て頂き実施をした。

教育環境:

- ・教員の意識に関する課題はプライドを考慮した指導・研修が必要ではないか。  
 →教員の教育として企業様との人員交換も含めて考えている。
- ・海外研修でシリコンバレーに行ってみてはどうか。  
 様々な企業を見て街を自分たちで作るという意識、視野の広さを養ってほしい。  
 →金額、食事等の課題はあるが検討する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等が求める職業実践的な人材像と学校が送り出す人材像とのギャップを埋め、卒業生の質を保証し本校の教育理念を果たすために企業等との連携は必須である。ギャップは社会の変化、技術進歩に学校が追いついていないところにあると考える。企業等との連携により、教職員の教育研修に注力するとともに、企業等による連携授業、業界研究（インターンシップ）等積極的に行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

企業技術講習の科目では、二輪自動車の販社との連携により、最近一般的になってきた環境問題に伴う排ガス規制や燃費向上のための電子制御式燃料噴射装置やインジェクションについて最新技術や、業界の近況を学習する。また、キャリアデザインの授業では、メーカーの行っている新人研修を学生にも体験させ、就職に必要なスキルを事前に学習する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
企業技術講習	環境問題に伴う排ガス規制や燃費向上のために、EFI（電子制御式燃料噴射装置）（インジェクション）が二輪自動車も一般的になっている。 ECUの制御信号をコントロール出来るサブコンピュータセッティングの方法を学ぶ。 ドカッティスクランブラーを使用して、車両の説明や特徴を座学で学び、外部診断機やパソコンを接続して故障探求の調べ方や診断機で何がみれるのかを実習を通して学ぶ。	・モトラボEJ ・株式会社カスノモーターサイクル
キャリアデザイン	スズキ株式会社が新入社員研修にて行う「フレッシュマンセミナー」を校内で1年生を対象に実施。 加えて、技術講習として新型車両に搭載されている技術を学ぶ。	・株式会社スズキ二輪

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

・学生・保護者・地域社会（企業）に対して本校の卒業生の質を担保するためには、教職員の教育力の向上が必須である。「学校法人京都中央学院教職員研修規程研修等」に基づき、①担当分野の実務、②インストラクショナルスキル、③学生指導・就職指導、④学校運営についての研修を計画的に行う。教育研修は、学校関係者すべてに関わるものであり、自己啓発を含め積極的に支援する。年度研修は研修計画に沿って行い、スポット研修は随時行う。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日産技術講習会」（連携企業等：日産自動車株式会社 日本ネットワーク戦略本部）  
期間：2019年8月5日（月曜日）～6日（火曜日） 対象：教員  
内容：  
・開発者プレゼンテーション ニッサンインテリジェントモビリティと電動化技術最前線  
・プロパイロット等技術説明と実車試乗  
・e-Power・e-Pedal 技術説明と実車試乗  
・日産フルラインナップテストコース試乗

研修名「いすゞ自動車ものづくり技術研修」（連携企業等：いすゞ自動車近畿株式会社）  
期間：2018年8月5日（月曜日）～6日（火曜日） 対象：教員  
内容：  
・ものづくり技術研修  
・小松工場見学  
・人材確保に関する情報交換会

研修名「整備主任者研修・検査員研修」（連携企業等：京都府自動車整備振興会）  
期間：2019年11月・12月 対象：教員  
内容：  
11月  
・自動車に於ける新技術と法改正について。  
12月  
・二輪車に於ける新技術と整備項目について。

研修名「整備主任者研修(二輪)」(連携企業等:京都府自動車整備振興会)

期間:2020年2月21日(金曜日) 対象:教員

内容:

- ・二輪自動車に於ける新技術と整備項目について

研修名「タイヤ空気充填業務特別教育」(連携企業等:京都府自動車整備振興会)

期間:2019年12月12日(木曜日) 対象:教員

内容:

- ・タイヤの構造と取扱・空気充填
- ・事故事例の研究

研修名「自由研削砥石特別安全教育」(連携企業等:京都府自動車整備振興会)

期間:2019年12月12日(木曜日) 対象:教員

内容:

- ・グラインダ等を取り扱う場合の注意点、及びバランス調整の方法
- ・事故事例

研修名「一級小型自動車整備士技術講習」(連携企業等:京都府自動車整備振興会)

期間:2019年7月～2020年2月 対象:教員

内容:

- ・一級自動車整備士資格取得・実技免除に係る二養での研修

研修名「巻上げ機の運転業務に関する特別教育」(連携企業等:京都府自動車整備振興会)

期間:2019年10月23日(水曜日)～24日(木曜日) 対象:教員

内容:

- ・ウィンチの取扱
- ・ワイヤーの種類と荷重

## ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「外国人留学生の在留審査手続の申請取次に係る研修会」(連携企業等:公財)大学コンソーシアム京都 留学生スタディ京都ネットワーク事務局)

期間:2019年7月4日(木曜日) 対象:新任教員

内容:

- ・留学生スタディ京都ネットワークについて
- ・出入国管理について
- ・質疑応答

研修名「キャリア・サポーター養成講座」(連携企業等:職業教育キャリア教育財団)

期間:2019年7月29日(月曜日)～7月31日(水曜日) 対象:教職員

内容:

- ・グループ討議、グループ研究、個人研究、個人作業、シェアリング(分かちあい)
- ・キャリアの意味、カウンセリング、キャリア・サポートの実践法を学ぶ

研修名「JAMCA教員夏期研修会」(連携企業等:全国自動車大学校整備専門学校協会(JAMCA))

期間:2019年7月30日(火曜日)～8月2日(金曜日) 対象:新任教員

内容:

- ・教育心理、授業運営技法、コーチング・コミュニケーション技法
- ・グループディスカッションとテーマ発表

研修名「京都府学校教育研究会」(連携企業等:才能教育研究会)

期間:2019年8月6日(火曜日) 対象:教員

内容:

- ・学生生徒との接し方
- ・タイプ別対応に関する分科会

## (3)研修等の計画

### ①専攻分野における実務に関する研修等

各種予定されていたが、新型コロナウイルスの影響により、中止のため掲載せず。

### ②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「教員研修会」(連携企業等:京都府専修学校各種学校協会)

期間:2020年9月26日(土曜日) 対象:教員経験1年以上の教員

内容:

- ・目的:遠隔授業の実際と課題
- ・目標:現在取り組んでいる遠隔授業についての課題を理解できる。  
これからの遠隔授業のあり方を理解し、授業に役立てることができる。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
(2) 学校運営	7 管理運営 9 改革・改善
(3) 教育活動	2 教育の内容
(4) 学修成果	4 教育目標の達成度と教育効果
(5) 学生支援	5 学生支援
(6) 教育環境	3 教育の実施体制
(7) 学生の受入れ募集	5 学生支援
(8) 財務	8 財務
(9) 法令等の遵守	7 管理運営
(10) 社会貢献・地域貢献	6 社会的活動
(11) 国際交流	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校運営に関して：

- ・2～3年前と比較すると学生が良い意味で変化している。どの様に変化させたのか。  
→実習場、学校の周りの清掃を上級生が実施。下級生が授業を受けやすい様に上級生が清掃している。  
下級生も実習車使用後に清掃を実施。お客様の車は預けた時以上に綺麗にして返す事が当然という教育をしている。  
学生の性質変化もあるが、教育の面で少しずつ改善を図っている。

学生の受け入れ募集に関して：

- ・学生の受入募集は目的と意味を理解して活動しないといけない。目先の高校生をターゲットしたくなるが、子供の時からの刷り込みが重要。車が面白い、格好良いという点を若年層に魅せる事が重要ではないか。  
→土曜塾の開催等、若年層の興味を惹く取組みを実施している。  
また、保護者が車に興味を持つ事も必要と感じている。

教育の内部質保証システムに関して：

- ・これまでの授業内容や自身の経験をやらなければならないという固定観念を外す必要がある。  
0ベースでやらなければならない状況を自ら作り出しているのではないか。  
→途中経過を踏まえて複数回当該教員との面談を実施。改善が見られない場合は担当の入れ替えを実施。  
また積極的に研修参加を促し、自己スキルアップの為の自己研鑽を意識して取組ませる。

社会貢献・地域貢献に関して：

- ・ボランティアと社会貢献は意味合いが少し違う。例えばボランティアの清掃活動にしても、ここをお掃除してあげるではなく、掃除させてもらって学びを得るという事である。  
→学生としてはやらされ感があり、ボランティア活動に関しての取組む意識と姿勢を育てる指導を行う。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
徳田 悦生	一般社団法人京都府自動車整備振興会 専務理事	平成31年4月1日～ 令和3年3月31日	学会
伊藤 康久	ネットトヨタ京華株式会社 取締役 管理部 長	平成31年4月1日～ 令和3年3月32日	企業
後藤 敬一	滋賀ダイハツ販売株式会社 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月33日	企業
嶋 雅明	有限会社嶋自動車電機 代表取締役	平成31年4月1日～ 令和3年3月34日	企業
森脇 勝幸	いすゞ自動車近畿株式会社 執行役員 経営管理室 室長	平成31年4月1日～ 令和3年3月35日	企業
木下 敬朗	株式会社レオタニモト サービス部長	平成31年4月1日～ 令和3年3月36日	企業
鳥本 美紀	株式会社レオタニモト	平成31年4月1日～ 令和3年3月37日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期  
(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/>

公表時期: 2020年 6月 1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容(提供する情報の項目例)全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科(コース)等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・就学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校の評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 二輪自動車整備科) 2020年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			エンジン構造Ⅰ	二輪自動車のエンジン関係の構造に於ける基礎知識と作動原理について勉強する。	1前	32	1	○			○	○			
○			エンジン構造Ⅱ	二輪自動車のエンジン関係の構造に於ける基礎知識と作動原理について勉強する。	1後	32	1	○			○	○			
○			シャシ構造Ⅰ	二輪自動車のシャシ関係の構造に於ける基礎知識と作動原理について勉強する。	1前	32	1	○			○	○			
○			シャシ構造Ⅱ	二輪自動車のシャシ関係の構造に於ける基礎知識と作動原理について勉強する。	1後	32	1	○			○	○			
○			電気工学Ⅰ	二輪自動車の電装関係に於ける基礎知識と作動原理について学習する。 電気と磁気(電子、電流、電圧、抵抗、半導体、電磁力)バッテリー、始動、充電、点火、灯火装置、計器類	1前	32	1	○			○	○			
○			電気工学Ⅱ	二輪自動車の電装関係に於ける基礎知識と作動原理について学習する。 電気と磁気(電子、電流、電圧、抵抗、半導体、電磁力)バッテリー、始動、充電、点火、灯火装置、計器類	1後	32	1	○			○	○			
○			基礎自動車工学Ⅰ	自動車とは何か？ 自動車ってどんな部品が付いてる？どんな材料でできているのか？ これから整備を学ぶ皆さんにぜひ知っておいてほしい基礎知識について解説します。	1前	32	1	○			○	○			
○			基礎自動車工学Ⅱ	自動車とは何かについて、前期で履修して頂きました。後期では、もう少し踏み込んで、自動車を構成しているネジや歯車などの“部品の部品”や、ガソリンやオイルなどの性質、それと、車の作動を理解するために必要な、基本的な原理・法則や、その計算方法等について解説します。	1後	32	1	○			○	○			
○			自動車工学	1年生の各学科で学んだ基本的な計算問題や基礎工学的な知識を、2級整備士レベルに高める。 整備士に求められる図表の読み方や計算問題の理解力を、共に解いていくことで高めていく。 最終目標である国家試験合格を目指し、て実際に出題された当該分野の問題を解くコツを身につける。	2前	32	1	○			○	○			
○			オートメーション基礎	自動運転や自動ブレーキなどの日々進化を続ける最新技術に対して、各メーカーの考え方や技術を理解する。オートメーション化に使用されているセンサやECUの制御、センサの調整方法などを理解し、整備士に必要な知識を学習する。	1前	32	1	○			○	○			

○		IT・マテリアル	2万点以上に上る自動車部品に使用される、金属・非鉄金属・樹脂・ガラスなど多くの原料の材質、製造方法、用途などを理解する。 また、PCを使用しWordとExcelについても併せて学び、CADなどPCを使用した製図の基盤とする。	1 後	32	1	○			○	○								
○		新エネルギー工	エネルギーに関する知識などをの学習や熱機関に関する構造・作動、熱機関に使用される燃料や油脂について学習し、2級ガソリン自動車及び2級ジーゼル自動車に合格できる知識を修得する。	2 前	32	1	○			○	○								
○		危険物	自動車にとって、欠かすことのできない燃料のガソリン、軽油や潤滑剤のエンジンオイル、ミッションオイルなどは消防法により危険物に指定されています。それらの知識を知ることによって安全に取り扱うことができるようになる。自動車業界にとっては重要な資格である。	1 前	48	1	○			○	○								
○		エンジン整備Ⅰ	三級二輪自動車、二級二輪自動車の各科目において、自動車整備技能登録試験に合格するレベルまでの知識を習得する。	2 前	32	1	○			○	○								
○		エンジン整備Ⅱ	三級二輪自動車、二級二輪自動車の各科目において、自動車整備技能登録試験に合格するレベルまでの知識を習得する。	2 後	32	1	○			○	○								
○		シャシ整備Ⅰ	二輪自動車のシャシ関係の整備に於ける基礎知識と点検、整備要領について勉強する。	2 前	32	1	○			○	○								
○		シャシ整備Ⅱ	1:二輪自動車の動力伝達装置、アクスル、サスペンション、ステアリング、タイヤ、ブレーキ及びフレームの各々、構造、機能、及び整備について学ぶ。 2:二級整備士の国家試験問題も教材に使用し反復指導し理解を深める。	2 後	32	1	○			○	○								
○		電装整備Ⅰ	二輪自動車の電装関係に於ける基礎知識と作動原理について勉強する。 二輪自動車の故障原因探究の進め方を勉強する。	2 前	32	1	○			○	○								
○		電装整備Ⅱ	二輪自動車の電装関係に於ける基礎知識と作動原理について勉強する。 二輪自動車の故障原因探究の進め方を勉強する。	2 後	32	1	○			○	○								
○		故障探究	二輪自動車の電装関係に於ける基礎知識と作動原理について勉強する。 二輪自動車の故障原因探究の進め方を勉強する。	2 後	32	1	○			○	○								
○		検査機器	自動車の整備工具及び検査機器について、その構造、機能、原理、特徴、操作上の注意点等を学習します。	2 後	38	1	○			○	○								
○		検査法	この授業では、自動車整備士が日常仕事をする上で必要な条文について、特に自動車の守るべき寸法や重量、装備などの基準の勉強します。	2 後	32	1	○			○	○								
○		法規	自動車を取り巻く様々な法律について、2級整備士が日常業務で使用する範囲を学ぶ授業です。	2 前	32	1	○			○	○								○
○		工作作業実習	各種機械工作機器・作業用工具等の使用方法、取り扱いを習熟させる。	1 後	28	1				○	○								○
○		測定作業実習	各種測定機器の使用方法・取り扱いと測定技術を習熟する。	1 前	56	2				○	○								○



○		エンジン実習Ⅰ	二輪自動車のエンジン関係の構造及び作動原理を単体部品及び実車を使用して習得する。 二輪自動車のエンジン関係の分解、組み立て要領、点検要領を単体部品又は、実車を使用して習得する。 エンジン関係の点検機器、測定機器の取り扱いと測定技術を習得する。	1通	176	6				○	○	○		
○		エンジン実習Ⅱ	車種別実践実技実習による技術取得を図る。	2通	182	6				○	○	○		
○		シャシ実習Ⅰ	二輪自動車のシャシ関係の構造及び作動原理を単体部品及び実車を使用して習得する。 二輪自動車のシャシ関係の分解、組み立て要領、点検要領を単体部品又は、実車を使用して習得する。 シャシ関係の点検機器、測定機器の取り扱いと測定技術を習得する。	1通	176	6				○	○	○		
○		シャシ実習Ⅱ	車種別実践実技実習による技術取得を図る。	2通	182	6				○	○	○		
○		電装実習Ⅰ	二輪自動車の電装の構造及び作動原理を単体部品及び実車を使用して習得する。 二輪自動車の電装関係の分解、組み立て要領、点検要領を単体部品又は、実車を使用して習得する。 電装関係の点検機器、測定機器の取り扱いと測定技術を習得する。	1通	176	6				○	○	○		
○		電装実習Ⅱ	二輪自動車の電装関係の構造及び作動原理を単体部品及び実車を使用して習得する。 二輪自動車の電装関係の分解、組み立て要領、点検要領を単体部品又は、実車を使用して習得する。 電装関係の点検機器、測定機器の取り扱いと測定技術を習得する。	2通	182	6				○	○	○		
○		総合実習Ⅰ	基本作業である分解、組み付けが正確に行い、工具、特殊工具、テストの使用法・取り扱い要領を習熟する。 四輪の基礎知識を習得する。	1通	92	3				○	○	○		
○		総合実習Ⅱ	二輪自動車の点検整備が出来て、点検内容が説明が出来るようになる。 二輪自動車と四輪自動車の構造の違いを理解する。	2通	116	4				○	○	○		
○		検査作業実習	二輪自動車の定期点検整備作業の手順を習得する。 二輪自動車の検査(車検)整備作業の手順を習得する。 点検、検査(車検)作業の使用する点検機器、測定機器の取り扱いと測定技術を習得する。	2後	66	2				○	○	○		
○		キャリアデザイン	経済環境の急速な変化のもと、職業教育・キャリア教育の必要性と重要性がますます高まっている。本講座では、学生が充実したキャリアを形成していくと同時にビジネス能力の向上が図れる学びを提供する。	1前	64	2	△	○		○	○	○	△	○
○		損害保険募集人	損害保険の募集に携わるため、保険契約者の利益を損なうことなく、適正な保険募集を行うために必要な知識を十分に着ける。 基礎単位：損害保険の基礎や募集コンプライアンスなど損害保険の募集のための基礎的な知識の習得 自動車単位：自動車保険の仕組みや契約条件、管理、周辺知識の習得	2前	30	1	○			○	○	○	△	
	○	企業研究	就職先と自己とのマッチングのために業界を知り働く意識をつける	1前	32	1	○			○	○	○		
	○	企業研修	国内メーカーや海外メーカーの自動車販売会社様の協力により行う技術講習会で、最新技術や業界の近況を知ることのできる授業、職業実践専門課程認証校としての取り組む授業	2前	32	1	△			○	○	△	△	○

○	ビジネス能力	社会人に必要な仕事の基礎・基本能力 (ジョブパス3級)	2 後	32	1	○			○	○		
○	ビジネス 文章力	ビジネス文書に関わる知識・技術 (日本漢字能力検定 準2級)	2 前	32	1	○			○	○		
○	コンピュータ	基本IT技術	1 後	32	1			○	○			○
○	プレゼン テーション	パワーポイントの基本操作とプレゼンテーションzz (プレゼンテーション検定 3級)	1 後	32	1			○	○			○
○	論理的思考力	日常の様々な話題を通して論理的考え方を学ぶ (ビジネス数学検定 3級)	2 前	32	1	○			○	○		
○	イベント プロデュースⅠ	ほりかわ祭や学校行事の運営	1 通	32	1			○	○			○
○	イベント プロデュースⅡ	ほりかわ祭や学校行事の運営	2 通	32	1			○	○			○
○	ボランティア 活動Ⅰ	ボランティア活動を通して仕事の意義を考える	1 通	32	1	△		○	△	○	○	
○	ボランティア 活動Ⅱ	ボランティア活動を通して仕事の意義を考える	2 通	32	1	△		○	△	○	○	
合計			48科目		2,636単位時間( 85単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
必須科目（国土交通省履修基準）71単位（2,190時間）および、選択必須3単位（94時間）以上を含む、合計74単位以上の履修 履修方法：ペーパーテスト、レポート、実技テストによる評価	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	17週	
(留意事項) 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。			
2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。			